

ライブドアがM&Aの時代到来を告げる

2月8日から9日の各紙で、ライブドアがニッポン放送株の35%買い占めたと報じられた。もともとフジテレビがいわゆるねじれ現象を解消するために親会社筋のニッポン放送を買収しようとTOBをかけていたのに、それを横取りする格好で躍り出たのがライブドアだったから、驚きの目でみられたわけだ。

プロ野球球団の横浜ベイスターズ、ヤクルトスワローズにニッポン放送、フジテレビがそれぞれ一部出資しているので、以前失敗したプロ野球の球団買収を横ルートから行おうとしているかのようだとの発言なども見られたが、これは全く事情を知らない人の観測だ。

ライブドアという会社は、ソフトバンク同様、IT関連事業を行うと同時に投資会社の性格を持っている。否、投資会社としての側面の方が強い。そういうことがあまり知られていない。そこで先の記事のように、全くずれた発言を掲載したりする。

日本にもいよいよM&A時代が到来しつつあるのかもしれない。世は金余り時代なのである。これだけの買収資金を用立てる証券会社がある。今回の場合、外資系証券会社のリーマン・ブラザーズだ。とはいえその資金源はよく分からない、外資系証券が買収資金を用立てたとはいえ、こういう動きが今後も起こるのであることが予想される。もはや日本的な持ち合いは崩壊しつつある。

経済界は堀江モンに対して批判的だが、テレビの視聴者の間では堀江人気が高い。それに対してフジテレビの日枝会長などは、従来の常識からすれば、そんな度はずれたことは言っていないのだが、分が悪い。某番組出演者の誰かが言っていたが、堀江モンがフジテレビのコンテンツを狙うのはよいとして、コンテンツはまさにヒトが作り出している。単純に資本の論理で押し切れるものでもない。日枝会長がそこについて防戦するのであれば、支持も集まるはずだ。

資本主義の論理に対して人本主義の論理を前面に出せば、論戦に勝てるはずなのだが、資本の論理で、つまり、ニッポン放送に新株予約権を発行させるという商法違反の疑いのある方法で対応しているのは、いただけない。人本主義を唱える方が格好がよい。実はフジテレビ側についていた大和SMB Cが外資証券にしてやられたというのが本当のところだ。脇が甘いというべきだろう（松村勝弘）。

（立命館大学経営学振興事業だより「Across」第13号，2005年3月，所収）